

キャリアのIP 電話インフラに付加価値 理想のメディア・サーバーを実現するHMP

音声/FAX ボード市場でトップシェアを誇るインテルが、通信キャリアのIP 電話サービスに向けたソリューション「HMP」を打ち出した。ボード機能を「ソフトウェア+IAサーバー」に移植したことで、IP 電話の付加価値化を低コスト・短時間で実現する。

IP 電話サービスの付加価値化をいかに進めるか 通信キャリアは今この大きな課題に直面している。低廉な通信料金ゆえの低い収益性をカバーするとともに、激しい市場競争にも打ち勝つためには、単なる電話ではない、IPのメリットを生かした高度なサービスを充実させなければならない。

インテルがリリースした「HMP」(Host Media Processing)は、こうした通信キャリアの課題を解決するうえで欠かせないインフラ設備の「メディア・サーバー」向けプラットフォーム用途を強く意識した製品だ。

HMPは、従来のボード製品においてDSPで実現してきたメディア処理機能をIA32(Intel Architecture)に移植し、回線インターフェースにはサーバーのNICを利用する。専用ハードウェアを一切必要とせず、IAサ

ーバーのみでメディア・サーバーを構築できるため、開発面でも運用・保守面でも大幅なコスト削減が可能だ。

現バージョンのHMP1.0は1CPUで最大64チャンネルの音声処理が可能。今年10月にリリース予定のHMP1.1では120チャンネルまで対応する。さらに、HMPの性能改善だけでなくPentiumのパフォーマンス向上によっても、より多回線への対応を実現できる。インテル製品の販売代理店である東京エレクトロン デバイス・コミュニケーションプロダクトグループ課長の神田裕彦氏は、「Pentium上で効率的な音声処理を行うことで、DSPを大きく上回るパフォーマンスと拡張性が期待できます。これはまさに、インテルとダイアログが一体になった一つの効果といえます」という。

東京エレクトロン デバイスでは、パ

※ HMP動作画面の例



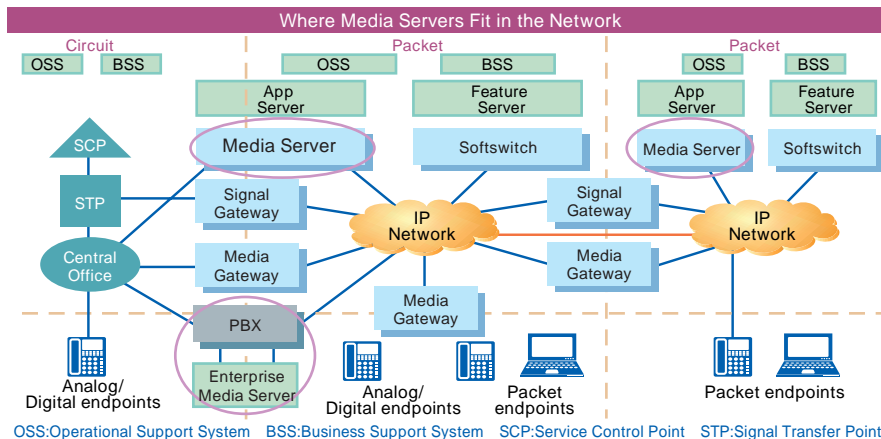
ートナーと提携し、容易にアプリケーションを開発できる環境及び販売ルートを整えていく。また、HMPは従来のボード製品と互換性のあるAPIを採用しており、既存のダイアログアプリケーションも最低限の変更で利用できる。

VoIPプロトコルとしては、H.323に加えSIPへの対応も予定。メディア処理部分のみにHMPを適用できる「スプリットコールコントロール」機能により、サードパーティのプロトコルスタックも使用可能だ。

「HMPでは、既存のシステム環境を最大限に生かせる仕組みが多く取り入れられています。これによって、開発コストの削減だけでなく、スピーディで柔軟なサービス展開も可能になります」と、神田氏は強調する。

通信キャリアのIP 電話サービスの高度化 = 新たな収益の創造を、HMPが強力に後押ししそうだ。

IPネットワークにおけるMedia Server



お問い合わせ先
東京エレクトロン デバイス株式会社
TEL : 045-474-5298
E-mail : ctisales@teldevice.co.jp
URL : http://cpg-dia.teldevice.co.jp/